

平成 26 年度 岩手県農業研究センター試験研究成果書

区分	普及	題名	超強力小麦「銀河のちから」の加工特性を引き出す後期窒素追肥法		
〔要約〕 超強力小麦「銀河のちから」の栽培において、原粒タンパク質含有率 11.5%以上、容積重 833g 以上を確保するためには、後期追肥は止葉抽出期～穂揃期に窒素成分で 4 kg/10a 施用する。					
キーワード	超強力小麦	銀河のちから	後期追肥	○技術部 作物研究室 県北農業研究所 作物研究室 環境部 生産環境研究室	

1 背景とねらい

平成 25 年に県奨励品種に編入された超強力小麦「銀河のちから」は、「ゆきちから」等とブレンドしてグルテンを高め、県産小麦 100%の学校給食パンでの利用を目指す計画がある他、中華めんやパスタへの利用も検討されている。

実需者からは「銀河のちから」の特徴である強靱なグルテンの力を安定的に発揮することを期待されており、原粒タンパク質含有率等の品質確保が重要である。

そこで、「銀河のちから」の加工品質を確保するための後期窒素追肥法を示すものである。

2 成果の内容

- (1) 後期窒素追肥として、止葉抽出期～穂揃期に窒素成分で 4 kg/10a を施用することにより、原粒タンパク質含有率 11.5%以上、容積重 833g 以上を確保できる (図 1)。
- (2) 止葉抽出期の有効茎数が 600 本/㎡未満で葉色が SPAD 値 55 以上であれば、止葉抽出期～穂揃期追肥量は窒素成分で 2 kg/10a に減じてよい(図 2)。

3 成果活用上の留意事項

- (1) 本成果は「ゆきちから」の栽培法に準じ、播種量 6～8 kg/10a、基肥 4～6 kg/10a の条件においてまとめた結果である。
- (2) 期待生育量及び目標収量ならびに融雪期窒素追肥法については現在検討中である。

4 成果の活用方法等

- (1) 適用地帯又は対象者等 「銀河のちから」の栽培地帯
- (2) 期待する活用効果 良質な県産超強力小麦の安定生産供給が図られる (普及見込み面積 100ha)

5 当該事項に係る試験研究課題

- (H19-13) : 「麦類の奨励品種決定調査及び有望系統の特性調査」(H18-30、県単)
 (1000) : 奨励品種決定調査「県南・県央地域」(H18-30、県単)、
 (2000) : 「県北地域」(H18-30、県単)
 (3000) : 有望系統特性調査 (H24-30、県単)

6 研究担当者 小原公則 高草木雅人 仲條眞介

7 参考資料・文献

- (1) 岩手県農業研究センター 平成 19～26 年度試験成績書 (一部未定稿)
- (2) 平成 25 年度岩手県農業研究センター試験研究成果 製パン適性に優れ穂発芽に強い超強力小麦「銀河のちから」
- (3) 東北農業研究センター 品種登録出願に関する参考成績書 小麦「東北 223 号」

8 試験成績の概要（具体的なデータ）

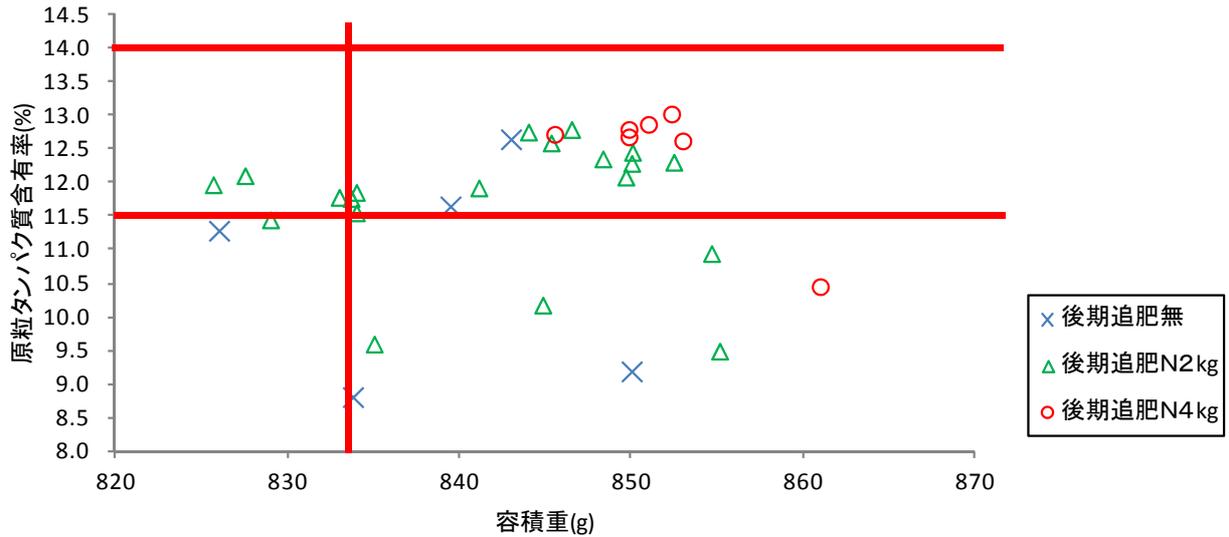


図1 後期追肥の量ごとの容積重と原粒タンパク質含有率の関係

(北上：H25-26産、現地：H26産)

容積重 833g、タンパク質含有率 11.5-14.0%はランク区分基準値。

後期追肥 4kg で安定して容積重、タンパク質含有率を確保。

※後期追肥：止葉抽出期～穂揃期の窒素追肥

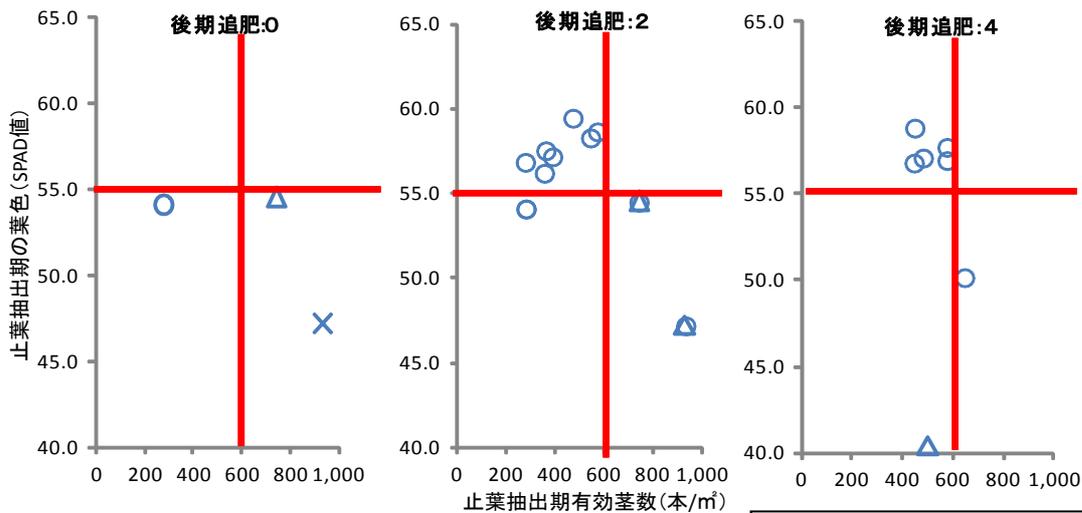


図2 後期追肥の量別に見た止葉抽出期有効茎数と葉色の関係

(北上：26産、現地：H26産) 葉色はn-1葉を測定。

【成熟期に収穫した子実品質】

○：容積重、タンパクとも基準値以上

△：容積重、タンパクのいずれかが基準値以下

×：容積重、タンパクとも基準値以下

※基準値・・・タンパク：11.5% 容積重：833g

止葉抽出期の有効茎数が600本以下で、葉色がSPAD55以上の場合、後期追肥 2kg で容積重、タンパクの基準を確保できる。